

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
Please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

FACSIMILE EQUIPMENT WITH EXPANDABLE FUNCTION

Patent Number: JP1068058

Publication date: 1989-03-14

Inventor(s): TANIGAWA TOSHIAKI

Applicant(s):: RICOH CO LTD

Requested Patent: JP1068058

Application Number: JP19870224574 19870908

Priority Number(s):

IPC Classification: H04N1/00 ; H04M11/00

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To expand function by only adding software and without modifying hardware by providing a mode setting means capable of setting a function expansion mode.

CONSTITUTION: When a facsimile equipment is set in the function expansion mode by the mode setting means 1, a communication means 2 is set in a reception-able state and a memory means 3 in a read-able state. When function expansion program data is received, the data is stored in the memory means 3, and a key access from a keyboard corresponding to the program data is set by a key function setting means 4. Upon completion of said procedure, the facsimile equipment comes in a function expanded state, and the function expansion is executed by the key operation through the keyboard 5 in accordance with the set key function. At such a time, a program selection means 6 operates so that the function expansion program in the memory means 3 is executed with priority. As a result, without providing any special hardware, the function can be expanded only by means of function expansion program data.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑪ 公開特許公報 (A)

昭64-68058

⑫ Int.Cl.

H 04 N 1/00
H 04 M 11/00

識別記号

302

庁内整理番号

C-7334-5C
8020-5K

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月14日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 機能拡張が可能なファクシミリ装置

⑮ 特願 昭62-224574

⑯ 出願 昭62(1987)9月8日

⑰ 発明者 谷川俊昭 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

⑱ 出願人 株式会社リコー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

明細書

1. 発明の名称

機能拡張が可能なファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

ファクシミリ装置において、

機能拡張モードを設定することができるモード設定手段と、

機能拡張プログラムを受信する通信手段と、

受信された機能拡張プログラムを格納する記憶手段と、

機能拡張プログラムに対応させてキーボードのキーアクセスを設定するキー機能設定手段と、

機能拡張モードにおいて機能拡張プログラムを優先的に実行せしめるプログラム選択手段

を具備したことを特徴とする機能拡張が可能なファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

技術分野

本発明は機能拡張が可能なファクシミリ装置

に係り、より詳細には機能拡張プログラムを付加して高機能化させることができたシステムを備えたファクシミリ装置に関する。

従来技術

ファクシミリ装置には西像通信に適して各種の機能を有しているものが多いが、多くの機能を有した高級機からあまり多くの機能を有していない低級機まで種々のタイプがある。

ところで、機能を追加して多機能を具備させようとして、それに伴って操作部や表示部等のハードウェアにおいて別の機能部を追加する必要が生じるため、低級機にオプショナルな機能を設けて機能を拡張する手段は採用されていない。また、マークシート方式やカード読み取り方式により、機能を拡張する手段もあるが、そのための専用の読み取り装置等のハードウェアが必要になりコスト高になる。

目的

そこで、本発明は、機能拡張のためのプログラムを他の端末装置等から通信手段によって入

カレ、ハードウェアの変更をすることなく、ソフトウェアの追加だけで機能を拡張させることができ可能なファクシミリ装置を提供することを目的として創作された。

構成

本発明の基本的構成は第1図に示される。

図において、1は機能拡張モードを設定することができるモード設定手段、2は機能拡張プログラムを受信する通信手段、3は受信された機能拡張プログラムを格納する記憶手段、4は機能拡張プログラムに対応させてファクシミリ装置のキーボード5のキーアクセスを設定するキー機能設定手段、6は機能拡張モードにおいてファクシミリ装置のデータ処理部7に格納されている本体プログラムと前記の機能拡張プログラムの内、機能拡張プログラムを優先的に実行せしめるプログラム選択手段である。

以上の構成において、モード設定手段1でファクシミリ装置を機能拡張モードに設定すると、ファクシミリ装置の通信手段2は受信可能

その際にプログラム選択手段6は記憶手段3の機能拡張プログラムを優先的に実行させる。

この結果、本発明のファクシミリ装置では特別なハードウェアを設けることなく、機能拡張プログラムデータだけで機能を拡張することができる。

実施例

以下、本発明の実施例を第2図及び第3図を用いて説明する。

第2図は機能拡張が可能なファクシミリ装置のシステム回路図と機能拡張プログラムデータを作成する端末装置のシステム回路図を示す。

この端末装置1-1の条件としては、ファクシミリ装置1-2の機能拡張プログラムを作成でき、これを通信手段によりファクシミリ装置1-2側へ伝送が必要であり、高機能キーボードユニット1-3、高機能CRTユニット1-4、通信制御ユニット1-5、システムプログラムを格納したROM1-6、機能拡張プログラムデータを蓄積するRAM1-7がCPU1-8

状態に、記憶手段3はリード可能状態にセットされる。尚、このモード設定手段1はファクシミリ装置のキーボード5における既存のキーの組合せにより構成することができ、機能拡張モードへの移行はデータ処理部7の本体プログラムによって実行される。また、通信手段2としては、ファクシミリ装置の画像通信用の通信手段を用いることができる。

機能拡張モードに設定された状態において、機能拡張プログラムデータが受信されると、そのデータは記憶手段3に格納され、更にそのプログラムデータに対応させたキーボード5のキーアクセスがキー機能設定手段4により設定される。即ち、機能拡張モードでは通常モードとはキーへの機能の割当てが異なるため、これを変更して設定する。

この手続が完了すると、ファクシミリ装置は機能拡張状態になり、前記に設定されたキー機能に基づいてキーボード5のキー操作を行うことにより拡張機能を実行させることになるが、

で制御される構成を有している。具体的には、前記のファクシミリ装置1-2より高性能なファクシミリ装置や通信機能を有したコンピュータシステム等によることができる。

一方、ファクシミリ装置1-2はシステムプログラムを格納したROM1-8、画像情報蓄積メモリであるRAM1-9、ラインバッファ2-0、画像圧縮再生装置2-1、通信制御ユニット2-2、キャナユニット2-3、プロッタユニット2-4、キーボードユニット2-5、LCDユニット2-6、管理データ格納用のEE-ROM2-7がCPU2-8で制御される構成からなる。

但し、このファクシミリ装置は次のような特徴を有している。

(a) 中断指示送信や時刻指定送信機能等の機能を有していないため、ROM1-8にはそれらの機能を実行するためのプログラムは格納されていない。

(b) キーボードユニット2-5のキーボードにおける所定のキーの組合せによる操作を行った場

合に、システムを機能拡張モードとするプログラムをROM18が格納している。

(c) EE-ROM27が、前記の機能拡張モード設定下において通常制御手段を介して伝送されてきた機能拡張プログラムデータを格納するメモリ領域を有しており、ROM18が機能拡張モードにおいてこの格納を実行するためのプログラムを格納している。

以上のシステムにおいて、ファクシミリ装置12を中心指示送信や時刻指定送信が可能なよう機能拡張するためのプロセスを第3図のフローチャートを参照しながら説明する。

まず、端末装置11においてファクシミリ装置12の中心指示送信や時刻指定送信に係る機能拡張プログラムを作成する(ステップ①)。この作業は、高機能CRTユニット14のCRTを見ながら高機能キーボードユニット13のキーを操作することにより行われる。この機能拡張プログラムは、ファクシミリ装置12は低級機であることからそのキーボードユニット2

このようにして、ファクシミリ装置12へ転送された機能拡張プログラムデータはCPU28の制御により通信制御ユニット22を介してEE-ROM27の所定のメモリ領域に格納されるが(ステップ②)。通信が終了すると、CPU28は機能拡張プログラムのデータに基づいてキーボードユニット25に対してキーアクセスの設定を実行する(ステップ③)。

これによって、ファクシミリ装置は拡張機能を実行できる状態になり、中轄指示送信や時刻指定送信を実行させようとする場合には、前記に設定されたキーアクセスに基づいたキー操作をキーボードユニット25から行うことにより、EE-ROM27の対応した機能拡張プログラムが読み出され、CPU28がこれを実行することにより中轄指示送信や時刻指定送信の処理手順が実行される(ステップ④、⑤)。

尚、以上は中轄指示送信や時刻指定送信機能を付加する場合について説明したが、同様のプロセスにより漢字まじりのTTIをセットさせ

るキー操作によっても作成し得ず、端末装置11によってのみ作成できるものである。

一このようにして作成されたプログラムは一旦端末装置11のRAM17に蓄積される(ステップ⑥)。

ここで、ファクシミリ装置12のキーボードにおける所定のキーの組合せ操作によりファクシミリ装置12が機能拡張モードに設定され、端末装置11とファクシミリ装置12の間で通信が開始され、端末装置11のRAM17の機能拡張プログラムデータが通信制御ユニット15を介してファクシミリ装置12へ伝送される(ステップ⑦、⑧、⑨)。この通信手順については、端末装置11側の通信制御ユニット15の通信インターフェースとしてRS232Cが使用されている場合には、ファクシミリ装置12側で一般的に使用されているV.21手順を適用することが可能であり、その手順によればロギング手順と同様に実行させることができる。

るような拡張機能も付加することができる。TTIとはファクシミリ通信において宛先の受信原稿の先端に送信側の名称等を書込むものであるが、低級機のファクシミリ装置ではカタカナまたは英文字で書込まれるようになっている。

これを漢字まじりのTTIとするには、前記の端末装置11で漢字データを作成しておき、このデータとTTIセットの場合にその漢字データを読み出すプログラムをファクシミリ装置12へ転送してEE-ROM27に格納し、機能拡張モードで実施させる。

結論

以上のように、本発明のファクシミリ装置は、ハードウェアの変更を伴うことなく、外部から機能拡張プログラムを受信するだけで本未有している機能以外の拡張機能をも実行できるようになる。従って、中轄指示送信や時刻指定送信機能等を有していない低級機のファクシミリ装置を機能拡張し、高級機のようにそれらの機能を実行し得る装置として使用することを可

能にする。

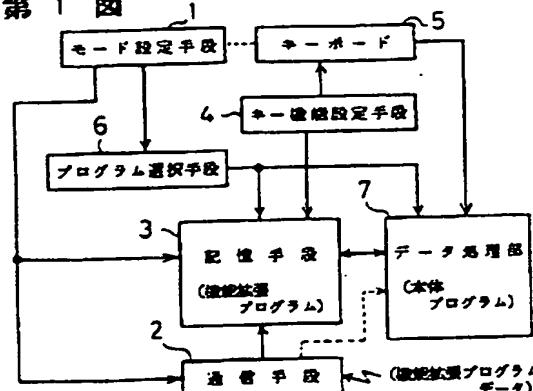
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の基本的構成を示すブロック図、第2図は機能拡張が可能なファクシミリ装置のシステム回路図と機能拡張プログラムデータを作成する端末装置のシステム回路図、第3図はファクシミリ装置の機能拡張を図るためにプロセスを示すフローチャートである。

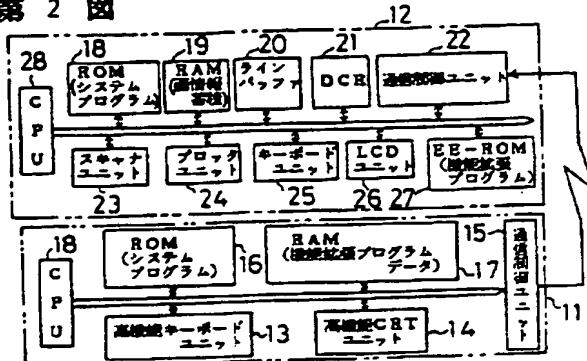
- 1—モード設定手段
- 2—通信手段
- 3—記憶手段
- 4—キー機能設定手段
- 5—キーボード
- 6—プログラム選択手段
- 7—データ処理部

特許出願人 株式会社リコー

第1図



第2図



第3図

